

Sat. Nov 7, 2020

A会場

教育講演 | ライブ

【質疑応答・ディスカッション】嚥下リハからみた口腔機能低下症

座長:戸原 玄(東京医科歯科大学大学院摂食嚥下リハビリテーション分野 教授)

1:20 PM - 1:30 PM A会場

[EL1] 嚥下リハからみた口腔機能低下症

○野原 幹司¹ (1. 大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能治療学教室)

教育講演 | ライブ

【質疑応答・ディスカッション】高齢者に多い口腔粘膜疾患、チェアーサイドでの診断と対応～口腔がんの早期発見も含めて～

座長:田中 彰(日本歯科大学新潟生命歯学部 口腔外科学講座)

2:00 PM - 2:10 PM A会場

[EL2] 高齢者に多い口腔粘膜疾患 チェアーサイドでの診断と対応～口腔がんの早期発見も含めて～

○片倉 朗¹ (1. 東京歯科大学 口腔病態外科学講座)

教育講演 | ライブ

【質疑応答・ディスカッション】嚥下リハからみた口腔機能低下症

座長: 戸原 玄(東京医科歯科大学大学院摂食嚥下リハビリテーション分野 教授)

Sat. Nov 7, 2020 1:20 PM - 1:30 PM A会場

【略歴】

1997年:

東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業

1998-2002年:

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科老化制御学系専攻高齢者歯科学分野大学院

1999-2000年:

藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学講座研究生

2001-2002年:

ジョンスホプキンス大学医学部リハビリテーション科研究生

2003-2004年:

東京医科歯科大学歯学部付属病院高齢者歯科 医員

2005-2007年:

東京医科歯科大学歯学部付属病院高齢者歯科 助手

東京医科歯科大学歯学部付属病院摂食リハビリテーション外来 外来医長

2008-2013年:

日本大学歯学部摂食機能療法学講座 准教授

2013-2020年:

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科老化制御学系口腔老化制御学講座高齢者歯科学分野 准教授

2020年-:

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科老化制御学系口腔老化制御学講座摂食嚥下リハビリテーション学分野
教授

[EL1] 嚥下リハからみた口腔機能低下症

○野原 幹司¹ (1. 大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能治療学教室)

(Sat. Nov 7, 2020 1:20 PM - 1:30 PM A会場)

[EL1] 嚥下リハからみた口腔機能低下症

○野原 幹司¹ (1. 大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能治療学教室)

【略歴】

1997年：

大阪大学歯学部歯学科卒

2001年：

大阪大学大学院歯学研究科修了 博士号取得（歯学）

2001年：

大阪大学歯学部附属病院 顎口腔機能治療部 医員

2002年：

大阪大学歯学部附属病院 顎口腔機能治療部 助手（2007年より助教） 兼 医長

2015年：

大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能治療学教室 准教授

現在に至る

専門分野

摂食嚥下障害，栄養障害，音声言語障害，睡眠時無呼吸症，口腔乾燥症

「口腔機能低下症」という病名が注目されている。口腔機能低下症とは「加齢だけでなく、疾患や障害など様々な要因によって、口腔の機能が複合的に低下している疾患。放置しておくとう咀嚼障害、摂食嚥下障害となって全身的な健康を損なう（本学会 HPより）」と定義される。したがって、機能障害の前段階ともいえる疾患概念である。

演者らは、摂食嚥下障害を専門とした臨床を行っており、口腔機能低下症の病名を付ける機会はないが、そこで経験されるのは摂食嚥下障害の症例はほぼ全例に原因疾患が存在するということである。初診時には原因疾患が無いとされていても、精査するとパーキンソン病や白質病変、ALS、食道腫瘍などが見つかる。

このようにあとから原因疾患が見つかる場合も「口腔機能低下症」の段階があったと推察される。要するに、摂食嚥下障害まで進行する口腔機能低下症は、原因疾患の初期症状を捉えている可能性があるということである。疾患に起因する口腔機能低下症に対しては、訓練などどんな対応をしても摂食嚥下障害への進行を予防することはできない。それは、例えばALS症例の機能障害を訓練で予防できないのと同様である。

一方、軽度のムセや咽頭残留感を訴える原因疾患のない口腔機能低下症の症例に対して、嚥下訓練を行うと症状が改善することは臨床的事実である。しかし、それら症例が、そのまま訓練せずに経過したとして、ムセの増加はあるにせよ、誤嚥性肺炎になるような摂食嚥下障害を生じるかという疑問である。原因疾患なく誤嚥性肺炎になった症例を臨床でみかけることは無く、論文報告も渉猟する限り存在しない。

したがって、摂食嚥下に関して口腔機能低下症と付けるときは、原因疾患を他科とも協力し合って徹底して精査して「原因疾患なし」となってから訓練を行う必要があるのかもしれない。原因疾患なしとなった場合でも、常に「疾患の初発症状」を診ている可能性を考慮し「訓練すれば予防できる」と安易に説明しない方がいいのかもしれない。真に口腔機能低下の原因疾患が無い場合には「このままでは肺炎になりますよ」という説明は恐怖心を与えるだけかもしれない。

少しややこしくなったが、今回の発表では、摂食嚥下障害の自験例を提示しながら、嚥下リハからみた口腔機能低下症について考えてみたい。口腔機能低下症は加算に対して付けられた病名である。

教育講演 | ライブ

【質疑応答・ディスカッション】高齢者に多い口腔粘膜疾患、チェアーサイドでの診断と対応～口腔がんの早期発見も含めて～

座長:田中 彰(日本歯科大学新潟生命歯学部 口腔外科学講座)

Sat. Nov 7, 2020 2:00 PM - 2:10 PM A会場

【略歴】

1990年：

日本歯科大学新潟歯学部卒業

1994年：

日本歯科大学大学院新潟歯学研究科修了

1995年：

日本歯科大学新潟歯学部口腔外科学第2講座 助手

2002年：

日本歯科大学新潟歯学部口腔外科学第2講座 講師

2005年：

日本歯科大学新潟歯学部附属病院 口腔外科 准教授

2012年：

日本歯科大学新潟病院 口腔外科 教授

2013年：

ベルン大学医学部 頭蓋顎顔面外科学講座 留学

2014年：

日本歯科大学新潟生命歯学部 口腔外科学講座 教授

現在に至る

[EL2] 高齢者に多い口腔粘膜疾患 チェアーサイドでの診断と対応～口腔がんの早期発見も含めて～

○片倉 朗¹ (1. 東京歯科大学 口腔病態外科学講座)

(Sat. Nov 7, 2020 2:00 PM - 2:10 PM A会場)

[EL2] 高齢者に多い口腔粘膜疾患 チェアーサイドでの診断と対応～口腔がんの早期発見も含めて～

○片倉 朗¹ (1. 東京歯科大学 口腔病態外科学講座)

【略歴】

1985年：

東京歯科大学卒業

1991年：

東京歯科大学大学院修了（歯学博士）

2003年～2004年：

UCLA歯学部口腔外科・医学部頭頸部外科に留学

2008年：

東京歯科大学 口腔外科学講座准教授

東京歯科大学大学院「がんプロフェッショナル養成プラン」コーディネーター

2011年4月：

東京歯科大学 オーラルメディシン・口腔外科学講座 教授

2015年4月：

東京歯科大学 口腔病態外科学講座 教授

2019年6月：

東京歯科大学水道橋病院 病院長

【所属学会等】

（公）日本口腔外科学会指導医、（公）日本老年歯科医学会指導医、（社）日本口腔診断学会指導医、（社）日本顎顔面インプラント学会指導医、（社）日本有病者歯科医療学会指導医、（社）日本口腔腫瘍学会暫定指導医、（社）日本顎関節学会暫定指導医、（社）日本小児口腔外科学会指導医、（社）日本口腔内科学会指導医、（社）日本感染症学会 インфекションコントロールドクター など

加齢が進むと全身的な生理的機能が低下するとともに口腔・顎・顔面領域にもその変化が顕著に現れます。その代表的なものは口腔機能低下症の診断要点になっている7つの項目です。また、腸管粘膜の大きな役割の一つは粘膜免疫ですが、口腔粘膜にも免疫機構が存在し加齢とともに上皮は菲薄となり、上皮内の免疫機能も低下することが免疫組織化学的にも分かっています。さらに唾液の分泌量低下に伴う自浄作用の低下は免疫力の低下と口腔環境の悪化を助長します。さらにいわゆる5疾患等で処方されて長期にわたり服用している薬剤は口腔粘膜に副次的な作用を及ぼすこともあります。このようなことが要因となって、高齢者は口腔粘膜に様々な症候や疾患を呈することが多くなります。

また、いずれの臓器でも加齢とともにがんの罹患者は増加します。口腔がんも同様でここ30年間で増加傾向を認めますが、その中で高齢者の口腔がん患者も顕著に増加しています。国民生活基礎調査では、70歳以降で歯科的問題を有する人数が急激に増加する一方で、同じ集団が80歳以上になると歯科診療所等への受診が極端に減少します。このことが高齢者で口腔がんの早期発見がしにくくしている要因の一つではないかと考えています。

今回は口腔粘膜疾患を中心として以下についてチェアーサイドでの一助となる内容を講演する予定です。

口腔粘膜の加齢の科学口腔カンジダ症、口腔扁平苔癬など代表的な口腔粘膜疾患の鑑別と治療治療薬による口腔粘膜へ副作用とその対処口腔潜在的悪性疾患（oral potentially malignant disorders：OPMD）、早期がんの鑑別について